

平成 15 年 10 月 17 日

平成 15 年 12 月期第 3 四半期の業績等の概況

会 社 名 モーニングスター株式会社
(コード番号 4 7 6 5 大証ヘラクレス市場)
(URL : <http://www.morningstar.co.jp/>)
代表者役職氏名 代表取締役社長 川 島 克 哉
本店所在地 東京都港区六本木 1-6-1
問 合 せ 先 取締役管理部長 森 山 昭 利
TEL 03 (6229) 0810

1. 連結業績 (表内の数字は百万円未満を切り捨てて記載しております。)

(1) 平成 15 年 12 月期第 3 四半期 (平成 15 年 1 月 1 日 ~ 平成 15 年 9 月 30 日) の業績

	15 年 12 月期第 3 四半期 (9 ヶ月累計)	対前年同期 増減率	14 年 12 月期第 3 四半期 (9 ヶ月累計)	参 考 前期 (通期)
	百万円	%	百万円	百万円
売 上 高	685	8.2	746	975
営 業 利 益	75	74.5	296	312
経 常 利 益	96	69.0	310	331
当期純利益	42	77.1	184	198

(2) 商品・サービス別売上高内訳

	15 年 12 月期第 3 四半期 (9 ヶ月累計)		14 年 12 月期第 3 四半期 (9 ヶ月累計)		参 考 前期 (通期)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
投資教育・コンサルティング	397	58.0	420	56.3	572	58.7
個別株・ファンドレポート	143	21.0	136	18.3	174	17.9
カスタムデータ	78	11.4	80	10.7	99	10.2
ウェブ広告	65	9.6	107	14.5	127	13.1
その他	0	0.0	1	0.2	1	0.1
合計	685	100.0	746	100.0	975	100.0

(3) 主な資産・負債の変動について

項 目	平成 15 年 12 月期第 3 四半期	増減額	前期末
(資 産)	百万円	百万円	百万円
現金及び預金	2,161	393	1,768
有価証券	1,168	1,096	72
短期貸付金		1,500	1,500
(負 債)	百万円	百万円	百万円
該当項目なし			

- (注) 1. 当四半期および前年同四半期に係る数値については、公認会計士又は監査法人の監査は受けておりません。
2. 主な資産・負債の変動については、各項目の変動額が前期末の総資産の 1.0%を超えるものを記載しております。

2. 連結業績の概況（平成 15 年 1 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日）

当四半期(平成 15 年 1 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日)におけるわが国経済は、比較的堅調な米国経済に支えられた輸出の好調や、リストラの一巡による雇用情勢の落ち着きなどを背景として、9 月には日経平均が 1 年 3 ヶ月ぶりに 1 万 1,000 円を上回る場面もあり、緩やかな回復基調をたどる兆しも見えてきました。

しかし、当社グループの事業と密接に関連する投資信託業界においては、解約にともなう投資資金の流出が年初から 7 月まで続き、8 月になって株式市場の好調も影響して資金は純流入に転じましたが、年初からの 9 ヶ月間全体としてはきわめて厳しい事業環境でありました。

(1) 売上高

前期 9 月に連結対象となったイー・アドバイザー株式会社の売上高がフルに寄与したものの、投資教育・コンサルティングやウェブ広告の落ち込みが影響して、当四半期の連結売上高は 685 百万円と前年同期の 746 百万円に比較して 61 百万円の減収となりました。

商品・サービス別の売上構成比では、個別株・ファンドレポートは前年同期の 18.3%から 21%に上昇したほか、投資教育・コンサルティングやカスタムデータの売上構成比も前年同期からわずかに上昇しました。一方で、証券市場の不振の影響をもっとも強く受ける形となったウェブ広告の売上構成比は、前年同期の 14.5%から 9.6%に低下しました。

商品・サービス別売上

投資教育・コンサルティング事業

当四半期の連結売上高は、397 百万円と前年同期の 420 百万円より 23 百万円(5.5%)減少いたしました。

平成 14 年 9 月から連結子会社となったイー・アドバイザー株式会社のセミナー売上が前年同期は 31 百万円計上されましたが、当四半期は 189 百万円となったこともあって、減収幅は少なめになっております。

個別株・ファンドレポート

当四半期の連結売上高は、143 百万円と前年同期の 136 百万円より 7 百万円(5.2%)の増加となりました。

環境悪のなか、販売努力が功を奏したこともあって前年同期比での増収を達成したものであります。

カスタムデータ

当四半期の連結売上高は、78 百万円と前年同期の 80 百万円から 2 百万円(2.5%)とわずかながら減少いたしました。

環境は悪いものの、過去 3 年の第 3 四半期におけるカスタムデータの売上は約 80 百万円前後と安定的な推移を示しております。

ウェブ広告

当四半期の連結売上高は、65 百万円と前年同期の 107 百万円から 42 百万円(39.2%)の大幅な減少となりました。

主要な広告主である投資信託の販売会社や運用会社が、証券市場の低迷によるファンド資産の伸び悩み等で苦戦しており、広告費を中心としたコストの削減を継続している影響をもっとも大きく受けた部門であります。

(2) 営業費用

当四半期の売上原価は、312百万円と前年同期の262百万円から49百万円(18.9%)増加し、売上高原価率も45.6%と前年同期の35.2%より約10ポイント上昇しました。

経費削減効果により、当社及びゴメス株式会社において、売上原価がそれぞれ26百万円及び10百万円減少しました。しかしながら、前年の9月に連結子会社となったイー・アドバイザー株式会社の売上原価が、前年の1ヶ月分だけに対して当四半期は9ヶ月分計上されたことから、85百万円の売上原価増加要因となっており、また、売上高原価率の上昇要因にもなっております。

販売費及び一般管理費は、296百万円で前年同期の187百万円から109百万円(58.7%)の大幅増加となりましたが、売上原価同様イー・アドバイザー株式会社の連結により82百万円の増加要因となっております。

(3) 営業利益および経常利益

売上高の減少61百万円及び営業費用の増加159百万円の影響により、当四半期の連結営業利益は75百万円と前年同期の296百万円から220百万円(74.5%)の大幅な減少となりました。

連結経常利益も、96百万円と前年同期の310百万円から214百万円(69.0%)の大幅減益となりました。

おなじく当期純利益は、42百万円と前年同期の184百万円から141百万円(77.1%)の減益となりました。

(4) 主な資産・負債の変動

(資産)

- ・ 現金及び預金が前期末(平成14年12月31日)に比較して393百万円増加しておりますが、これは、主として短期貸付金1,500百万円の回収による増加があった一方、短期債券1,100百万円の取得による減少があったためです。
- ・ 有価証券の増加1,096百万円は主として償還まで1年未満の短期債券1,100百万円を取得したためであります。
- ・ 短期貸付金の減少1,500百万円は、前期末において現先取引の運用により計上されていた短期貸付金を短期債券の投資へシフトしたためであります。

(負債)

- ・ 前期末(平成14年12月31日)の総資産の1.0%を超えて変動した負債項目はありませんでした。

3. 今後の方針

低迷していた株価も景気の緩やかな回復にともなって、本格的な上昇局面を迎えると期待され、個人投資家の証券投資への回帰に備えた積極的な施策を講じて参ります。

当社による投資教育・コンサルティング部門に一層注力するとともに、本年7月に指数の公表を開始した社会的責任投資(SRI)について、コンサルティング売上の増加につなげるべく、指数の普及と採用先の拡大を積極的に推進して参ります。

グループ全体としても、イー・アドバイザー株式会社による個人向けの営業や、拡大を続けるインターネット関連市場におけるゴメス株式会社のサービスの拡充により、投資教育・コンサルティング部門の増収に努めます。

ウェブ広告の媒体であるホームページの運営におきましては、提供する機能や資産管理ツールの改良と提供するコンテンツの多様化を図り、ページビュー数の増加に努めます。また、金融機関以外の広告主開拓にも積極的に取り組んでまいります。

比較的安定した売上が続いているカスタムデータについても、事業法人向けの販売など取引先の拡大に努めて参ります。

ファンドレポートや個別株式レポートについては、販売先や販売件数の拡大とともに収益性の向上にも努めます。

(注意事項)

本書面に記載されている、モーニングスター株式会社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、現実に発生した歴史的事実ではないものが含まれている場合は、将来の業績に関する見通しでありますので、以下の点にご留意ください。

これらの見通しは、現在入手可能な情報から得られたモーニングスター株式会社の経営者の判断にもとづくものです。

実際の業績は、さまざまな要因により、結果が見通しのとおりにならない可能性や不確実性を含んでいるため、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは、差し控えていただくようお願いいたします。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社事業を取り巻く経済情勢、技術革新や関連する法規制などがありますが、これらに限定されるものではありません。

また、モーニングスター株式会社は、本書面に記載された事項の変化について、逐一情報の更新を行うとは限りません。